

今年の大火記念行事では、消防団白根分団と消防署が、消防車など7台で町内をパレードし、火の用心を呼びかけた(5月13日)

# 白根町大火を

あれから55年。知らない人も、恐ろしさを通り越し

# 忘れずに

た。大火災を考えてみてください。

「木造家屋の密集地からの出火と、強風。この2つが重なると、手に負えない大火災になる」と言われています。白根町の中心部を焼きはらった「白根町大火」からすでに55年経過しました。あのころとは生活様式も変わり、今やスイッチ一つで着火、消火と、火が手軽に扱われている時代です。しかしながら、大火災の条件は今も昔も変わりません。あのような惨事を繰り返さないためにも、もう一度、白根町大火を思い起こし、わが家からは絶対に火事を出さないという心構えで、家族全員が「火の用心」に心がけてください。

## 昨年は三千十四万四千円が灰に

昨年一年間の市内の火災発生件数は十一件、その損害額は三千十四万四千円で、貴重な財産が灰になっていきます。発生状況を地区別に見ると、白根が四件で最も多く、次いで新飯田二件、茨曾根、庄瀬、白井、鷺。消防庁では、本年度の火災予防の重点ポイントとして、次の七つを掲げています。これらをぜひ、皆さんの家庭や各自で実行してください。

### ストーブ、天ぷらなべ火災に要注意

- 1、寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- 2、子供には、マッチやライターを近づけない。
- 3、風の強いときは、たき火をしなす。
- 4、天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。
- 5、家の周りに燃えやすいものを置かない。
- 6、風呂のからだきをしない。
- 7、ストーブには燃えやすいものを近づけない。

### 「119番」は落ち着いて正確に

火災を発見したら、あなたはまず何をしますか?— 昨年の白根地区消防署管内の火災十五件のうち、十四件が119番への通報によるものでした(119番一件、駆け付けは無し)。

あなたもいつか、119番へ通報する場面に出合うかもしれせん。

消防ポンプ自動車が一瞬も早く現場に到着し、効果的な活動をするためには「落ち着いて」「正確

に」通報していただくことが大切です。

119番へ通報すると、次のことをお尋ねします。あわてずに答えてください。

①火事ですか、救急ですか。

②場所はどこですか、何番地ですか。(白根市〇〇×番地です。というように伝えてください)

③近くに目標・目印となるものがありますか。(近くの工場や学校など、目印となるような建物を伝えてください)

④何が燃えていますか。どんな状態ですか。(住宅や作業所など)

⑤あなたの名前は。今お使いの電話番号は。

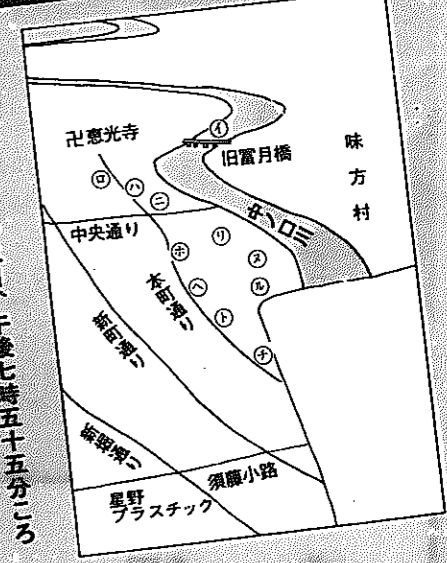
※救急車を呼ぶ場合も④以外は同じです。ほかに「事故か病気が」「ケガ人の数(男女別)」「意識はあるか」「どこをケガしているか。どんな状態か(必要な病院の手配のため重要)」などをお尋ねします。

③の目標地点がはっきりした段階で、すぐに消防車や救急車が現場へ向かいます。その後、状態を聞きながら無線で連絡を取り合います。

正確な通報は、秒を争う消火や救急活動になくはなりません。的確な行動を行うためには、その判断のもととなるあなたの正確な通報が、ぜひとも必要なのです。



出火してから約十四時間後の白根の町



昭和六年五月十三日、午後七時五十五分ころに出火。火の手は上と下にあつたという間に燃え広がり、町の中心部を焼きはらった(写真は翌日午前十時の白根の町)

### 白根町大火状況

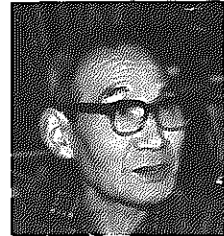
- 出火日時：昭和六年五月十三日 午後七時五十五分ころ
- 出火場所：白根町五六ノ町表通り 西側中央
- 気象状況：天候晴れ、風向東、風速五級
- 被災区域：三の町、四の町、五六ノ町、魚町、能登、横町、左五門小路
- 被災戸数：四百九十二戸
- 全焼戸数：四百七十三戸(住家二百八十六戸、非住家八十七戸)
- 半焼戸数：十八戸(住家)
- 破壊戸数：一戸(住家)
- り災人口：二千百十四人(当時の白根町の全人口七千七百三十三人)
- り災戸数の総戸数に対する割合(住家)：二七% (四百五戸/千四百六十六戸)
- 死者数：七人(死者一人、負傷者六人)
- 損害見積額：九十五万円
- 当時の消防力：手引動力ポンプ三台、蒸気ポンプ二台、腕用ポンプ三台、消防手二百八十人
- 応援出場消防組：一市五町十七か村(二十六消防組)
- 新潟市、小須戸町、新津町、五泉町、新飯田村、庄瀬村、白井村、鷺ノ木、鷺巻村、茨曾根村、須田村、小林村、根岸村、大郷村、加茂町、巻町、月潟、月潟

### 白根市街地大火発生記録

- ▽明治十三年三月九日 魚町より出火。三十余戸焼失
- ▽明治二十年八月八日 魚町表通り西側より出火。町大半焼失
- ▽明治二十四年七月十二日 上町より出火。百余戸焼失
- ▽明治二十九年三月十三日 五六ノ町より出火。三十余戸焼失
- ▽明治三十六年八月二十日 四の町より出火。百二十余戸焼失
- ▽昭和六年五月十三日 白根町大火
- ▽昭和二十九年十月二十二日 桜町東側より出火。十戸焼失
- ▽昭和三十一年五月二十二日 桜町西側より出火。八戸焼失
- ▽昭和四十六年一月十六日 二の町東側より出火。十戸焼失

### あのおとき私は……

#### 「ヨオー焼けたなあ」とただぼう然



高橋祐四雄さん (五六ノ町3・69歳・商店主)

あれだけの大火事になるとは、だれもが、もちろん考えつかないことでした。とにかく、中心部のほとんどが焼けたわけですから、おかしな話ですが、当時十四歳だった私は恐ろしいというより、「ヨオー焼けたなあ」といった、あきれかえるというか、感心するというか、そんな気持ちだったように記憶しています。とにかく家財道具を持ち出すのが精いっぱいでした。出火当時は西風で、途中で風向きがだしの風(東風)に変わり、どんどん燃え広がりました。

一時は川を越えて西白根にも飛び火したほどでした。当時の建物は、屋根は木端(こば)で、雁木(がんぎ)も木造で、雁木伝いに火が走り、とにかく火の回りが速くここならだいたいようぶと荷物を運んでも、火が南、北へどんどん広がるため、荷物を二度送り、三度送りました人もありました。本町通りから東側

の私たちは、小学校のグラウンドへ運んだわけですが、火の手が高く上がり、暗さを感じないほどでした。

消防ポンプは、手引動力ポンプが主で、取水口は中ノ口川と新堀でした。

少し落ち着くと、天皇陛下から一軒につき二円の見舞い金が贈られましたし、お盆ころには、家が建ち始めました。